

令和2年度 上下水道局予算編成方針

堺市はSDGs未来都市であり、持続的に発展するまちをめざしている。

今回、この目標の達成に向け、上下水道局の基本理念を『続けることで、続く!』に定め、上下水道局を変革することとした。

令和2年度の予算は、この基本理念のもと、堺の水道と下水道を取り巻く状況や課題、組織運営方針（Ⅰ～Ⅲ参照）を踏まえ、次の五つの方針に基づき策定すること。

基本理念 『続けることで、続く!』

市民の暮らしをまもり続けるために、何を続けるべきか、職員ひとりひとりが考え、未来に向けた行動を続ける

- 一、 収益を生み出すため、「投資」の視点をもった予算とすること
- 二、 すべての業務を見直し、将来の課題に対応した予算とすること
- 三、 事業を効率化するため、民間のノウハウや資金を活用すること
- 四、 原価（給水・汚水処理）の縮減に資する予算とすること
- 五、 資産をスリム化するため、未使用の資産を売却等により削減すること

Ⅰ. 堺の水道と下水道を取り巻く状況

- ・水道法の目的が、「水道の基盤の強化」に改められた（令和元年10月1日施行）。
- ・市長のもと、大阪府や大阪市、近隣自治体との連携が加速している。
- ・大阪市との水道事業に係る包括連携協定（令和元年10月1日締結）により、お客さまサービスの向上や経営基盤の強化に向けた連携が可能となっている。

Ⅱ. 堺の水道と下水道が抱える課題

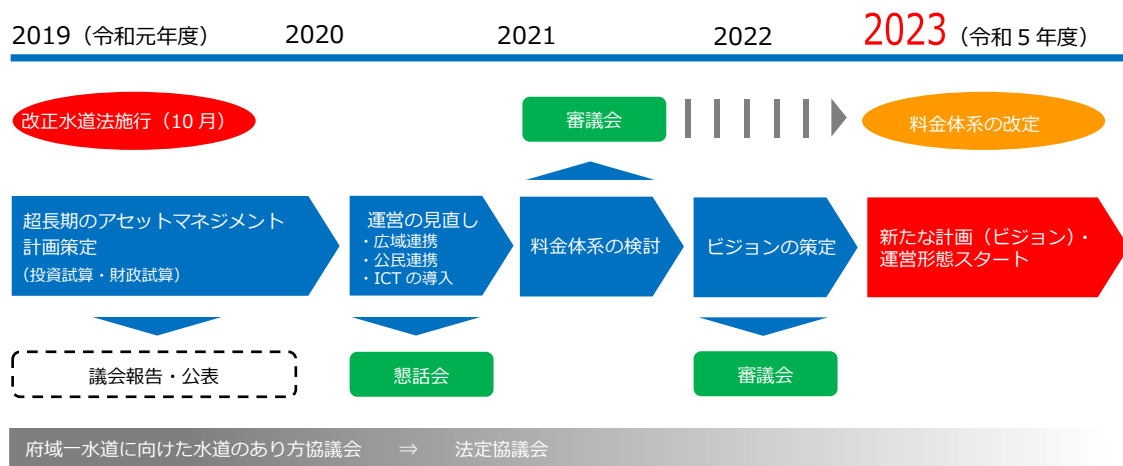
- ・人口減少や水道使用量の小口化により、料金収入の減少が想定される。
- ・本市は全ての水道水を大阪広域水道企業団から購入しており、受水費が収益に影響するため、漏水を削減する必要がある。
- ・経年化した施設が増加しており、点検や修繕、改築更新の事業量とコストが増加している。
- ・頻発する風水害や地震への対応ニーズが高まっており、事業量とコストが増加している。
- ・下水道事業において、過去の投資に伴う企業債（借金）の償還により、今後、資金不足が想定される。
- ・水需要の減少に伴い資産（施設能力）が余剰となることから、将来を見据えた資産規模とする必要がある。

Ⅲ. 上下水道局の組織運営方針

現在、上下水道局を取り巻く環境は厳しさを増しており、人口減少や施設の老朽化が進むなか、地震や豪雨などの大規模災害、低廉な料金・使用料の維持という市民ニーズにも対応した水道・下水道サービスを提供していく必要がある。

事業を持続可能とするため、令和元年度からの令和4年度までの4年間で、事業の基盤強化に向けた構想の検討を進める。

そのうえで、令和5年度から、中長期を見据えた新たなビジョンと新たな運営形態により事業を実施する。



— 予算要求の留意事項 —

- ・ 上下水道ビジョンの事業計画を堅守及び早期実施する予算とすること。
- ・ 組織運営方針や超長期のアセットマネジメント計画と矛盾しない予算とすること。
- ・ 国の制度改正や予算編成等に留意し、補助金等を最大限活用すること。

【参考】

《市長が描く堺の将来像》

1. 類まれな歴史・伝統・文化を最大限に活かし、新しい技術やサービス、時代の変化に柔軟に対応しながら未来を創り出すことのできる街
2. 住民が将来に希望を持ってずっとこの地域で住みたいと思うと同時に、他地域からも人や企業を惹きつける魅力ある街